

## 第VI章 部活動と学校生活



### 1. 学校生活への参加度と充足感

#### (1) 応援にいったことがあるか

ここではまず学校生活への参加度を応援への参加という観点から見てみた。表VI-1は、属性別のクロス集計である。よく応援にいく(3回以上ある)生徒が33%いる一方で、約4割の生徒はまったくいったことがないという。性別では、女子の方が見るスポーツという意識が高いのであろうか、男子に比してかなり多く参加している。学校別では、圧倒的に私立校の参加度が高い。応援にいったことがないという生徒は、公立校では半数以上の59%に達するのに対して私立校は、公立校の半分の29%にすぎない。

部活動参加状況との関係では、応援といえは運動部に集中しているせいか、運動部の生徒に比して文化部に入っている生徒の参加度は極端に少ないことが目立つ。都大会の準決勝あたりでないとなんか全校挙げてということにはならないのであろう。

次に、家での勉強時間と部活参加のクロスから見ると面白い結果が出てきた。数値は「3回以上」いったことを示す。応援によくいく者は、部活動の参加状況よりも、家庭での勉強

	2時間以上	30分以内	
運動部	42%	< 52%	(最高値)
文化部	18%	< 29%	
不参加	18%	< 37%	

表VI-1 応援参加×性別・学校別・部活動参加状況

(%)

属性		尺度	3回以上ある	ぜんぜんない
全体			32.9	40.7
性別	男子		28.9	41.3
	女子		43.5	39.0
学校別	私立校		38.9	28.7
	公立校		23.9	58.8
部活動参加状況	運動部に入り	熱心に参加している	48.1	33.0
		あまり熱心でない	40.1	37.4
	文化部に入り	熱心に参加している	19.4	54.9
		あまり熱心でない		
以前参加していたが、現在は参加していない・参加したことはない			27.4	40.3

○ 最高値  
 最低値

3回以上ある
1-2回ある
ぜんぜんない

時間に左右される。勉強時間の少ない者が暇があるのであろうか、よく応援にいつている。

こうして応援によくいつているのは、女生徒で、学校別では私立の生徒、そして部活動は運動部で家庭での勉強時間の少ない生徒というプロフィールが浮かぶ。

## (2) 授業への取り組み方

つぎに学校生活にとって大きな位置を占めている勉強や授業について、生徒たちはどう見ているだろうか。ここでは、常に問題となる部活と勉強は両立するかどうか、現在の授業に満足しているかどうか、授業中の態度はどうかの3点に絞って考察してみたい。

### ① 両立すると考えているか

表VI-2は、部活動のなかでも特に運動部と勉強の両立は可能かという問いの結果を属性別に調べたものである。まず全体を見ると

48%と約半数の生徒が両立は可能だ（充分可能である＋可能な場合が多い）と考えている。性別では、男子47%＜女子51%とやや女子が高い数値を示している。また、学校別で見ると公立校の方が1割近く高い数値を出している。

そして部活動に参加している生徒たちの意見を聞いてみると運動部、文化部は共に52%であるのに対して、部活動に参加していない生徒は、41%で、両者の落差は11%になる。参加していない生徒のなかには、勉強との両立に悩んでやめた者や、最初から両立できないだろうと考えた者たちが含まれているために、このような数値になったのであろう。

ところで、表VI-2の両立可能と考えている数値は、現場にいる我々教師から見るとかなり高いように思える。生徒たちの意識（数値）のなかには多分に願望が含まれているのではないだろうか。それとも生徒たちの考えている両立の「中身」と我々のそれとの間に大きな

ギャップがあるのだろうか。部活も熱心に行って成績も中の上以上を維持できるという我々の考える実際に両立可能な者は、「充分可能である」と答えたうちの20%程の生徒にすぎない、と言ったら生徒たちには酷であろうか。

### ④ 授業に充足感を持っているか

では、半数近くが勉強との両立が可能と考えている生徒たちは、学校生活の中での勉強の要となる授業に充足感を持っているのだろうか。そこで、高校生活を以下の7項目に分けて、それぞれの充足感はその程度かという問いをしたところ、

友人とのつきあい	63%
部活動などの面で	36%
授業を受けているとき	21%
異性との交際	16%
先生方との関係で	12%

塾・予備校などで 9%

生徒会・委員会・ホームルーム活動などで 7%

「とても(かなり)充足している」

という数値を得た。半数を超えたのは「友人とのつきあい」のみで、全体的に生徒たちの充足感満たされていない様子がわかる。授業は、部活について3番目に位置しているが、充足感を持っている生徒はわずか2割にすぎない。

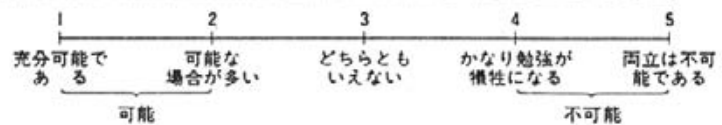
今、少ないながらも授業に充足している者を部活動に関する属性別に調べてみたが、それほど有意の差がある結果はみられなかった。

しかし、一歩突っ込んで部活参加の有無と家で勉強時間とのクロスから見ると図VI-1のように歴然たる差が認められる。どんな部活動への参加状況にせよ、家庭で2時間以上勉強している者が、やはり授業に充足感を抱

表VI-2 運動部と勉強の両立は可能か

(%)

属性		尺度	可 能	
			可	不 可 能
全 体			48.0	26.5
性 別	男 子		46.7	28.2
	女 子		50.9	22.4
学 校 別	私 立 校		44.4	30.2
	公 立 校		53.2	20.9
部 活 動 参 加 状 況	運動部に入り	熱心に参加している	56.1	26.2
		あまり熱心でない	48.4	
			52.2	30.2
文化部に入り	熱心に参加している	51.6	21.5	
	あまり熱心でない			
以前参加していたが、現在は参加していない、参加したことはない			41.2	27.9



いている。(運動部42%、文化部43%、不参加37%)。これに対して家での勉強時間30分以内の生徒(運動部9%、文化部10%、不参加7%)は、充足感をもてない。

つまり授業に対する充足感は、考えてみれば当然だが、部活に参加しているか否かではなく、はっきりと家での予習・復習といった勉強時間に左右されていることが、ここからは読みとれる。

### ① 授業態度はどうか

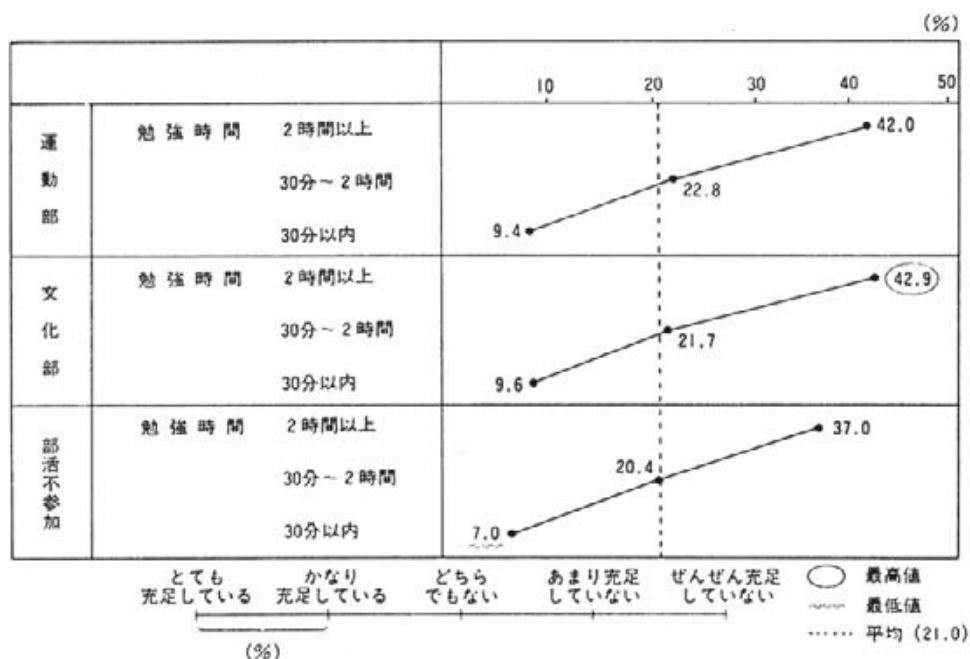
ではあまり授業に充足感をもてない生徒たちは、授業に対してどのように臨んでいるのだろうか。表VI-3は、生徒たちに授業中の態度について問いかけた結果のクロス集計である。このうち左の「ノートをしっかり取る」と「先生の話を中心に聞く」と「積極的に質問をする」の3つは、意欲的に授業に参加しようという能動的な態度を示す項目である。一方、右の「となりの人とよくおしゃべりする」と「よくいねむりする」と「内職をする」の3つは、受動的、逃避的に授業を受けようとする消極的な態度を示す項目であ

る。

まず表中の「全体」に注目すると、かなり多くの生徒(69%)がノートをとるという積極的な態度を示していることがわかる。ところが、先生の話を中心に聞いているという生徒が4割にすぎないという状況と重ね合わせて考えると、ノートをとるということは、どうも先生が板書した事柄をノートするという受動的態度の結果を意味しているのではないだろうか。つまり、先生の話聞いて要点をまとめ、さらに不明な点や自分の調べてきた疑問点を質問するというような積極的に授業に参加するという姿勢には、やや欠けている様子がここでは読みとれる。

そして、板書や作業や問題演習をしないで講義しているときは、ときどきとなりの生徒とおしゃべりしたり、時にはいねむりや内職をしているという姿が浮かびあがってくる。いささか意欲的・能動的な授業態度とはいえない状態である。これでは、授業に対する充足感もあまり得られないのは至極当然かもしれない。もちろん、ここでは教える側の働きかけ方についてはいっさい問うていないので

図VI-1 授業に対する充足感×部活動参加×勉強時間



片手落ちのきれいのある点は承知しているつもりである。  
つぎに属性別に着目してみよう。性別では、

意外にも男子の方がやや意欲的である。女子は、おしゃべりや内職が目立ち、先生の話に熱心に聞いていない。また学校別では、ノ-

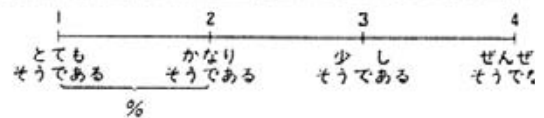
表VI-3 授業態度×属性

(%)

		ノートをし っかりとる	先生の話 を熱心 に聞く	積極的 に質 問を する	となりの 人とよ くお しゃべ りする	よくい ねむ りする	「内職」 をする	
全 体		69.1	44.3	6.6	34.4	29.5	19.8	
性 別	男 子	68.7	46.4 ∇	7.9 ∇	32.7 ∧	29.8	18.7 ∧	
	女 子	70.3	38.8	3.2	38.9	28.8	23.0	
学 校 別	私 立 校	72.0 ∇	43.7	7.2	36.0	28.6	20.0	
	公 立 校	64.8	45.2	5.7	32.0	30.9	19.6	
部 活 参 加 状 況	運動部に入り	熱心に参加している	69.4	45.7	7.9	34.4	35.4	21.6
		あまり熱心でない	64.1	40.4	5.8	39.8	32.3	18.3
	文化部に入り	熱心に参加している	73.6	52.2	6.2	28.4	23.0	15.6
		あまり熱心でない	64.0	41.2	3.8	30.4	28.5	19.6
	以前参加していたが、現在は参加していない	66.3	40.9	6.7	37.1	28.3	21.1	
参加したことはない	75.2	46.2	6.4	32.6	26.4	20.3		
部 活 参 加 × 勉 強 時 間	運 動 部	勉強時間 2時間以上	79.0	68.5	13.7	26.9	23.7	19.0
		30分～2時間	75.2	48.5	5.0	32.3	29.0	17.8
		30分以内	51.7	24.6	6.7	46.0	48.2	25.5
	文 化 部	勉強時間 2時間以上	83.9	63.4	8.9	18.2	18.7	13.4
		30分～2時間	68.9	49.3	4.4	31.2	23.9	15.8
		30分以内	56.8	28.5	3.2	34.9	35.0	23.8
	不 参 加	勉強時間 2時間以上	80.8	65.3	12.0	25.5	18.7	16.4
		30分～2時間	75.8	42.0	4.3	33.2	23.2	19.5
		30分以内	55.4	28.8	5.6	44.5	39.5	23.8

( ) 各項目中の最高値

~~~~ 各項目中の最低値



トをしっかりとする生徒が公立校より私立校にやや多いが、それ以外では有意の差は認められない。

部活動では、運動部で熱心に参加している生徒は、他の生徒に比べて積極的に質問するが、授業中のいねむりや内職が多い。勉強時間の少なさをカバーするために授業中は集中し、さらに積極的に質問して授業の消化の効率をはかり、受験科目でない時間の授業では、内職をしたり疲労を回復するためのいねむりにあてたりしている姿が浮かんでくる。これに対して、文化部で熱心に参加している生徒は、おしゃべりやいねむりや内職が少なく、授業態度も概して積極的である。また部活に参加したことがない生徒は、先生の話を中心に聞き、ノートをしっかりとしている。

ところで、部活動と授業態度との関係を考察する上で見逃せないのが家で勉強時間との相関関係である。この観点から見ると前の授業に対する充足感と同様に有意差がはっきりしてくる。ノートをしっかりとり先生の話を中心に聞く生徒は、部活動参加の有無に関係なく勉強時間の多少に比例して減少している。逆によくおしゃべりをしいねむりをする生徒は、勉強時間の多少に反比例して増加する。

次に運動部に所属していて2時間以上勉強する生徒を見ると、多少いねむりや内職はするが、他のどのような生徒よりも最も先生の話を中心に聞いて(69%)積極的に質問している(14%)。ここからは授業に集中している姿が読みとれる。これに対して、運動部に入っていて勉強時間30分以内という生徒を見ると、他のどのようなタイプの生徒よりもノートはとらず(とるのは52%)、先生の話も聞かず(聞くのは25%)、授業中はむしろいねむりをしている(48%)かおしゃべり(46%)や内職をしている(26%)ことが多いという、最も不真面目な生徒像ができあがってくる。一方、文化部に所属していて2時間以上勉強している者からは、いねむり(19%)やおしゃべり(18%)や内職(13%)が最も少なく、

しっかりとノートをとっている(84%)という非常に真摯な生徒像が描けるのである。

以上のことから、授業に積極的に取り組むか否かの大きな要因は、部活動への参加状況より勉強時間の多少にあることがわかっていく。

### (3)学級活動をさぼったことがあるか

ここでは視点をかえて、部活動と学校における生徒の基礎的な生活集団として編成されているホームルーム内での活動とが、どう関係しているかを考察してみたい。表VI-4は、部活動のためにクラス内での役割をさぼったりひきうけなかったことがあるか、という問いに答えてくれたものである。学校行事への参加も多くの学校ではクラス単位であるので、一応ここに含めた。表中の数値は「1回もない」に「1回はある」を加えたものである。

さぼる割合の少ない方から並べると、ホームルーム89%、学校行事87%、クラス委員をひきうけない79%、クラスの係仕事72%、掃除58%という順になる。この順序は、他の各クロスで比較してもほぼ同じ傾向が得られている。つまり、どのようなタイプの生徒でもホームルームや学校行事はおおむねさぼらないということである。特にホームルームは、活動自体は低調な状況下であり(『モノグラフ・高校生'83 vol. 9 高校生活の意味』参照)、活動そのものには充足感を持っていないが(表VI-5参照)、学校生活のなかで最も基礎的な場であるという意識は持っていると思われる。

しかし、クラス内で現実に各種役割分担をどうするかという場面になるとさぼる生徒が出てくる。特に最も日常的でしかも当番になる回数も多い毎日の掃除をさぼる生徒が多くなる。家庭でも各自の部屋を掃除しないという生徒が増えており、またそれを認めている親のいる現状では、掃除をさぼることは、あまり罪悪感など持たなくなってきたのだろうか。掃除も教育の一環と考えるのは、今や古い時代遅れの考えになってしまったのだろうか。

ところで、つぎに属性別に見てみたい。性

別では、当然ながら女子の方が男子よりクラス内の役割を真面目にやっている。しかし、掃除などはもっと落差があるのではと予想していたが、わずか8%の差でしかないのは意外に感じられた。(もっとも、筆者の勤務校などを見るとさもありなんとも思えるのだが。)学校別では、掃除とクラスの係仕事で公立校のさばりが顕著である。公立校の方がホームルームへの取り組み方にルーズさがあるためではと考えられる。

部活動では、運動部で熱心に参加している生徒は部活を優先させているせい、掃除や

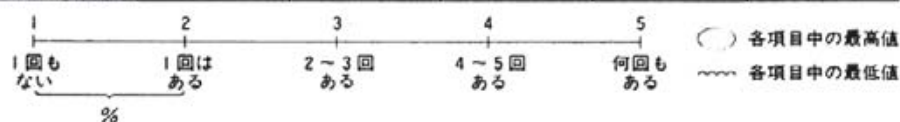
クラス内の係やクラス代表の委員などのクラス内での役割分担には最も消極的態度をとっている。しかし、集団として活動するホームルームや学校行事にはおおむね参加している。これに対して、不参加者はホームルームや学校行事を一番さぼっている。

これに対して、文化部の不熱心な生徒は逆にクラス内では積極的の態度を示している。これは、運動部の熱心な生徒や不参加者が極力クラス内での役割をさぼったり忌避する傾向にあるため、やむなくひきうけざるを得ないという状況の結果かもしれない。

表VI-4 部活動のためにクラス内での役割をさぼったことはあるか

(%)

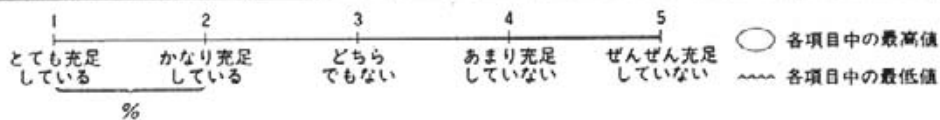
| 属性        |                      | 項目        | 掃除をさぼったこと | クラスの係仕事をさぼったこと | クラスの委員をひきうけなかったこと | 学校の行事をさぼったこと | ホームルームをさぼったこと |
|-----------|----------------------|-----------|-----------|----------------|-------------------|--------------|---------------|
| 全体        |                      |           | 58.0      | 72.3           | 78.5              | 87.1         | 88.7          |
| 性別        | 男子                   |           | 55.9      | 70.6           | 75.6              | 85.0         | 88.4          |
|           | 女子                   |           | 62.6      | 76.0           | 84.9              | 91.7         | 89.3          |
| 学校別       | 私立校                  |           | 67.9      | 80.3           | 78.1              | 86.1         | 90.0          |
|           | 公立校                  |           | 47.8      | 63.9           | 78.9              | 88.1         | 87.3          |
| 部活参加状況    | 運動部に入り               | 熱心に参加している | 46.3      | 65.0           | 70.4              | 84.4         | 87.6          |
|           |                      | あまり熱心でない  | 57.5      | 76.2           | 87.4              | 90.6         | 92.4          |
|           | 文化部に入り               | 熱心に参加している | 70.4      | 71.2           | 84.4              | 90.9         | 88.1          |
|           |                      | あまり熱心でない  | 71.3      | 81.4           | 88.2              | 90.4         | 92.0          |
|           | 以前参加していたが、現在は参加していない |           | 47.8      | 69.5           | 72.6              | 82.6         | 82.6          |
| 参加したことはない |                      | 51.3      | 70.2      | 73.0           | 79.0              | 81.6         |               |



表VI-5 学校生活に対する充足感×属性

(%)

| 属性        |                    | 項目                              | 友人とのつきあい | 部活動などの面で | 異性との文際 | 先生方との関係で | 生徒会・委員会・ホームルーム活動などで |
|-----------|--------------------|---------------------------------|----------|----------|--------|----------|---------------------|
| 全体        |                    |                                 | 63.0     | 36.0     | 15.5   | 12.3     | 7.1                 |
| 部活参加状況    | 運動部に入り             | 熱心に参加している                       | 75.1     | 78.0     | 17.3   | 17.7     | 7.1                 |
|           |                    | あまり熱心でない                        | 60.0     | 23.6     | 14.2   | 10.2     | 7.6                 |
|           | 文化部に入り             | 熱心に参加している                       | 56.0     | 41.2     | 13.6   | 14.1     | 10.1                |
|           |                    | あまり熱心でない                        | 59.8     | 8.3      | 15.4   | 9.0      | 5.5                 |
|           |                    | 以前参加していたが、現在は参加していない。参加したことはない。 |          |          |        |          |                     |
| 部活での位置    | いつも中心(レギュラー)       |                                 | 68.3     | 62.3     | 18.4   | 16.7     | 9.7                 |
|           | ときどきレギュラー          |                                 | 68.0     | 58.9     | 13.9   | 12.7     | 5.9                 |
|           | あまりレギュラーになれない      |                                 | 66.6     | 48.8     | 12.9   | 16.3     | 6.5                 |
|           | まったくレギュラーになつたことはない |                                 | 57.4     | 46.8     | 8.4    | 14.2     | 7.2                 |
| 部活参加×勉強時間 | 運動部                | 勉強時間 2時間以上                      | 70.9     | 63.5     | 15.5   | 23.3     | 12.7                |
|           |                    | 30分～2時間                         | 72.3     | 63.8     | 14.6   | 15.4     | 8.0                 |
|           |                    | 30分以内                           | 68.0     | 56.8     | 19.0   | 10.9     | 3.1                 |
|           | 文化部                | 勉強時間 2時間以上                      | 54.4     | 51.8     | 11.7   | 21.4     | 14.3                |
|           |                    | 30分～2時間                         | 58.6     | 38.3     | 11.1   | 10.2     | 7.6                 |
|           |                    | 30分以内                           | 53.2     | 36.5     | 20.3   | 15.1     | 11.3                |
| 不参加       | 勉強時間 2時間以上         | 67.3                            | 13.1     | 13.7     | 14.6   | 11.0     |                     |
|           | 30分～2時間            | 58.2                            | 6.6      | 12.6     | 8.0    | 4.5      |                     |
|           | 30分以内              | 56.9                            | 6.6      | 20.1     | 5.9    | 3.0      |                     |





#### (4) 学校生活に対する充足感

これまで学校生活への参加のしかたを応援と授業と学級活動に絞って見てきた。ここでは、生徒たちの学校生活に対する充足感の程度を探ってみたい。授業については図VI-1で述べてあるので、表VI-5は、校外生活に該当する塾・予備校を除く5項目を対象としている。

「全体」の数値に着目すると、先に少しふれたが、「友人とのつきあい」(63%)を別として、充足感が低い。ところで、その低い充足感は属性別にみるとどのように変わるであろうか。

部活動の参加状況では、運動部の熱心な者が部活動に充足するのは当然だとしても、「友人とのつきあい」(75%)、「異性との交際」(17%)、そして「先生方との関係」(18%)においても、一番充足感が高い。しかもいつも部活動の中心となって活躍しているレギュラーの者は、それらのもとより「生徒会・委員会・ホームルーム活動など」(10%)においてさえ充足感をもつ傾向が強い。

他方、文化部の生徒は生徒会などの活動を除いて、他の面での充足感は低い。とりわけ

「友人とのつきあい」(56%)や「異性との交際」(14%)という同年齢との人間関係の充足感が一番低いのである。また、不参加者と運動部の不熱心な者は、ほぼ同じ数値を示し、先生との関係や生徒会などの学校のフォーマルな活動において充足感が乏しいようである。

このように、部活動の参加状況によって学校生活の充足感は異なってくるが、家庭での勉強時間の長さ別に調べると、興味深い事実が読みとれる。

まず、教師との関係はどんな部活動に参加しているか、していないかにかかわらず勉強時間が長い者ほど充足している。「授業」のところで同じことを指摘しておいたが、授業や教師といういわば学校の中心的な場面においては、勉強時間の長さが大きなポイントを占める。

また、友人とのつきあいや異性との交際においても、教師や授業ほどではないにせよ勉強時間の長さが、充足感を左右している。すなわち、友人関係においては、勉強時間の短い(30分以内)者が、最も充足感が低い。逆に、異性との交際は、勉強時間の短い者が一番充足感が高い。部活動に参加していようが、不参加であろうが、勉強時間の短い者が異性との交際に充足感をもっている。

このように、授業や教師に対する充足感は、学業成績と関係するためか家庭での勉強時間の多少にはっきりと左右されている。また友人関係においてもかなり勉強時間がウエイトを占める。ただし、そのベクトルの方向は、友人とのつきあいと異性交際では別である。勉強時間の短い者は友人とのつきあいには充足しないが、異性との交際では充足する。

したがって、学校生活での充足感は部活動に熱心に参加し積極的に取り組んでいる者ほど高く、そして異性との交際を例外として家庭でも勉強に励むという両立タイプや勉強優先タイプが他の領域でも充足している。すなわち、学校のフォーマルな文化(授業、部活動のいずれにせよ)に意欲的に取り組む者ほど、学校生活が生き生きとしている。



## 2. 卒業後の進路選択

学校生活のしめくくりとして、生徒たちが志望する卒業後の進路と部活動との関係を見ておこう。

まず、図VI-2に注目すると、圧倒的に多いのが進学志望者であり、特に4年制大学志望者は実に80%に達し、短期大学志望者を含めた大学進学志望者は85%に及んでいる。しかし、現実の進路状況はどうかというと、東京都の公立学校全日制普通科の卒業生で実際に4年制(19%)と短大(11%)を含む大学に進学できた者は30%にすぎないのである。そして37%が浪人となっている(東京都教育委員会『公立学校卒業生(昭和57年度)の進路状況調査報告書』昭和58年12月1日発行)。かれらの志望と現実との間にはかなりの開きが見られる。

なお、図は省略したが、性別による相違を見ると、男子の87%が4年制大学志望であるのに対して、女子は63%にすぎない。最も男子との差に相当する分が短期大学12%と各種学校・専修学校12%を志望しており、トータルとしての進学志望に大きな開きは認められない。

ところで、進路選択のなかでも特に4年制大学志望に限定して部活動との関わりを探ってみたのが図VI-3である。部活動について見ると、目的達成意欲の高いと思われる部活動に熱心な生徒の志向が一番高く、ついで部活に参加していない生徒が続く、部活に熱心でない生徒が一番低い。部活に消極的な者は進路選択でも消極的といえる。なお国公立大学に限定すると文化部で熱心な生徒が52%と5割を超え、ついで運動部で不熱心な生徒が続いている。

家での勉強時間と部活参加の有無のクロス集計からは、歴然たる差が認められる。2時間以上勉強する運動部・文化部・部活に参加

していない者の国公立大学志向は、68%・61%・59%と7割から6割に達しており断然他の生徒に比べて高い数値を示している。逆に勉強時間30分以内の運動部と部活に参加していない者の国公立大学志望率は、24%・20%と極端に低く、私立大学を含めた志望率でも65%・61%と2時間以上勉強している運動部の生徒の国公立大学志望率にも及ばない。5教科7科目をこなすためには、生半可な勉強では対応できない。したがって勉強時間が減少するのに応じて、否応なく科目数の少ない私立大学志望へ変更せざるをえないという現実を図VI-3の数値は如実に示している。

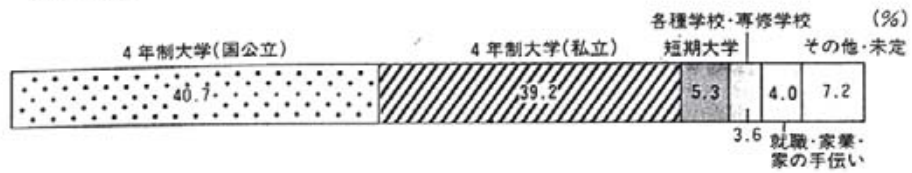
以上のことから、4年制大学、特に国公立大学を強く志望するのは、家での勉強時間の長い者で、文化部なら熱心に活動しているようなタイプである。運動部なら、あまり部活にのめり込んでいないといったタイプである。つまり目的達成意欲の強い生徒像がここからは浮かんでくるのである。

以上のことから学校生活と部活動との関係をもとめてみると、つぎのようなことが言えるのではないだろうか。

学校生活の各場面に積極的に参加してエンジョイしている生徒は、概して部活動に熱心な生徒たちに多い。こうした生徒たちは、学校生活に対する充足感が全体に低いなかでは、他のタイプの生徒たちに比して充足感が高いといえよう。

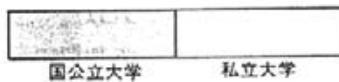
しかし、一步突っ込んで見ると、部活動に入っている者のなかでも家での勉強時間の長い生徒の方が、参加度も充足感もより高いのである。勉強時間の長さは、おおむね成績に比例しているのだから、部活動とならんで、否、それ以上に生徒の成績如何が学校生活に対する参加度や充足感を規定しているといえよう。

図VI-2 進路選択



図VI-3 4年制大学志望者×属性

|         |                      |            |            | 国公立大学 |      | 私立大学 |  | 合計 |  |  |
|---------|----------------------|------------|------------|-------|------|------|--|----|--|--|
| 部活動参加状況 | 運動部に入り               | 熱心に参加している  | 43.1       | 40.9  | 84.0 |      |  |    |  |  |
|         |                      | あまり熱心でない   | 47.8       | 23.7  | 71.5 |      |  |    |  |  |
|         | 文化部に入り               | 熱心に参加している  | 52.3       | 33.7  | 86.0 |      |  |    |  |  |
|         |                      | あまり熱心でない   | 38.9       | 38.4  | 77.3 |      |  |    |  |  |
|         | 以前参加していたが、現在は参加していない | 39.1       | 39.8       | 78.9  |      |      |  |    |  |  |
|         | 参加したことはない            | 31.0       | 48.6       | 79.6  |      |      |  |    |  |  |
|         | 部活動参加×勉強時間           | 運動部        | 勉強時間 2時間以上 | 67.6  | 24.5 | 92.1 |  |    |  |  |
|         |                      |            | 30分～2時間    | 49.7  | 37.0 | 86.7 |  |    |  |  |
| 30分以内   |                      |            | 24.2       | 40.5  | 64.7 |      |  |    |  |  |
| 文化部     |                      | 勉強時間 2時間以上 | 60.7       | 27.7  | 88.4 |      |  |    |  |  |
|         |                      | 30分～2時間    | 44.5       | 38.3  | 82.8 |      |  |    |  |  |
|         |                      | 30分以内      | 35.7       | 39.7  | 75.4 |      |  |    |  |  |
| 不参加     |                      | 勉強時間 2時間以上 | 58.6       | 34.8  | 93.4 |      |  |    |  |  |
|         |                      | 30分～2時間    | 35.1       | 50.3  | 85.4 |      |  |    |  |  |
|         |                      | 30分以内      | 19.7       | 41.6  | 61.3 |      |  |    |  |  |

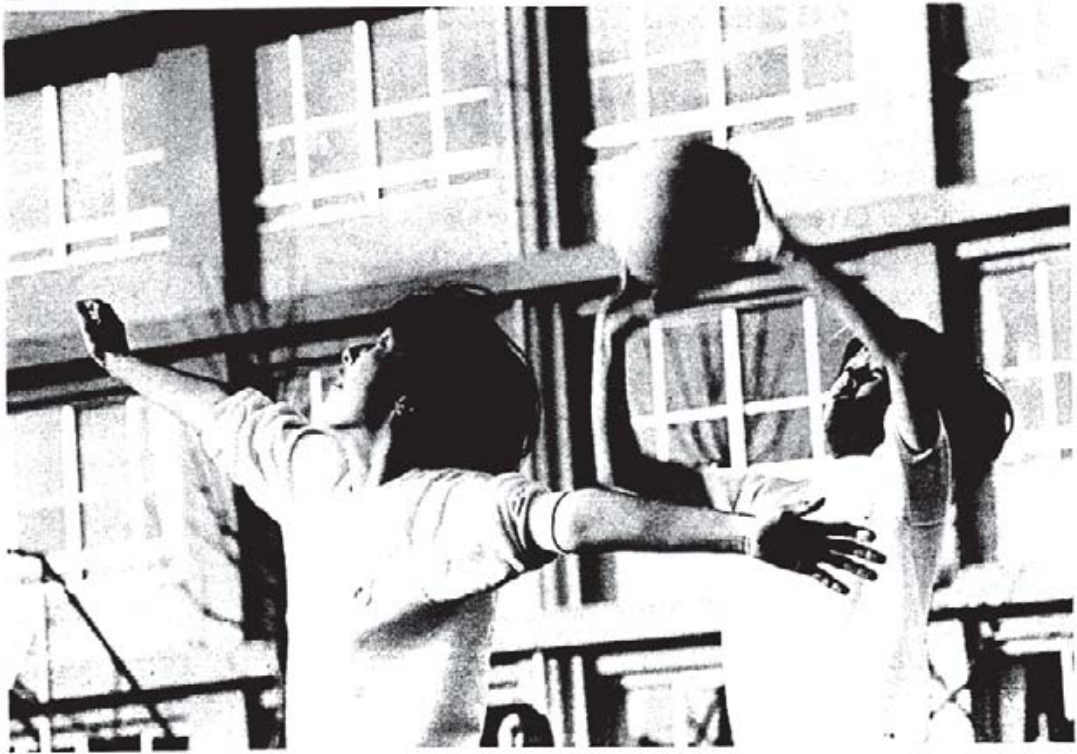


そしてこのことは、将来の進路選択についても該当する。もちろん、学校生活のなかで大切な人間関係や仲間意識を育てる分野での部活動の役割を過小評価するつもりはないが。一方、勉強時間も少なく部活動をやめた生徒また今まで参加したことのないといった消極的な生徒たちの学校生活へのかかわりはいたって低いのである。

つまり、部活動に参加していて家でも勉強時間をかなりとっているタイプの生徒、言い換えれば、充分とはいかないまでも両立させている生徒たちが、学校生活の各場面で中心的役割を担っていることがここからは読みとれる。



## 第Ⅶ章 運動部の生徒たち



### 1. 運動部員のプロフィール

#### (1) 部活動の充足感

まずはじめに、運動部員が部活動に対してどのように感じ、どの程度の充足感を抱いているかを、文化部員との比較の中で見てみよう。

図Ⅶ-1によると、運動部は「疲れること」(50%)が多く、「苦しさ」(43%)、「厳しさ」(39%)とも文化部とは大差をもって強く感じられている。そのためか退部しようと思う生徒も多く、半数以上(55%)が「いつも」あるいは「ときどき」思う、と答えている。

しかし、そうした「つらさ」は必ずしも部

活動に対する不満につながるのではないようである。なぜなら、「満足度」でも運動部の方が高く、39%が「とても」あるいは「かなり」満足と感じているからである。

そして、これらの傾向は、同じ運動部員の中でも、熱心に活動している者の方に、より顕著に現れている(図Ⅶ-1の( )内数値参照)。

次に、部活動に参加する中で感じている悩みについて、運動部員と文化部員を比較したものが表Ⅶ-1である。

勉強、遊び、異性との交際、休日の休息など、日常生活のさまざまな活動において、文化部員に比べて多忙なために充分時間をとれ

図Ⅶ-1 部活動の実感

1. 帰宅後の疲れ

|       | ぐったりしている<br>かなり疲れている | 少し疲れを<br>感じている | あまり・まったく<br>疲れていない |
|-------|----------------------|----------------|--------------------|
| 運 動 部 | 50<br>(56)           | 35<br>(35)     | 15<br>(9)          |
| 文 化 部 | 20                   | 30             | 50                 |

2. 部活動の楽しさ

|       | とても・<br>かなり楽しい | 少し楽しい      | あまり・ぜんぜん<br>楽しくない |
|-------|----------------|------------|-------------------|
| 運 動 部 | 55<br>(65)     | 27<br>(24) | 18<br>(11)        |
| 文 化 部 | 52             | 30         | 17                |

3. 部活動の苦しさ

|       | とても・<br>かなり苦しい | 少し苦しい      | あまり・ぜんぜん<br>苦しくない |
|-------|----------------|------------|-------------------|
| 運 動 部 | 43<br>(54)     | 30<br>(29) | 26<br>(17)        |
| 文 化 部 | 11             | 16         | 74                |

4. 部活動の厳しさ

|       | とても・<br>かなり厳しい | 少し厳しい      | あまり・ぜんぜん<br>厳しくない |
|-------|----------------|------------|-------------------|
| 運 動 部 | 39<br>(48)     | 29<br>(30) | 32<br>(22)        |
| 文 化 部 | 8              | 14         | 79                |

5. 退部しようと思うこと

|       | いつも・<br>ときどき思う | あまり<br>思わない | まったく<br>思わない |
|-------|----------------|-------------|--------------|
| 運 動 部 | 55<br>(52)     | 25<br>(26)  | 20<br>(23)   |
| 文 化 部 | 40             | 25          | 36           |

6. 部活動全体の満足度

|       | とても・<br>かなり満足 | 少し満足       | 少し・<br>まったく不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|
| 運 動 部 | 39<br>(49)    | 30<br>(28) | 32<br>(22)    |
| 文 化 部 | 29            | 25         | 47            |

7. 顧問の先生への満足度

|       | とても・<br>かなり満足 | 少し満足       | 少し・<br>まったく不満 |
|-------|---------------|------------|---------------|
| 運 動 部 | 27<br>(31)    | 23<br>(22) | 50<br>(46)    |
| 文 化 部 | 25            | 28         | 48            |

注1) 単位：%

注2) ( )内の数値は運動部熱心派

ないと答える者が多い。これに対し、部活動そのものの中で生じる悩みは、「先輩がいばりすぎる」を除けば、あまり文化部との間に

差はない。文化部員に比べてとにかく多忙な運動部員の気持ちが、表Ⅶ-1から伝わってくる。

表Ⅶ-1 部活動の悩み

(%)

| 項目                    | 属性  |     | 文化部 |
|-----------------------|-----|-----|-----|
|                       | 運動部 | 文化部 |     |
|                       | 熱心  | 不熱心 |     |
| 練習や試合のため勉強する時間がない     | 38  |     | 19  |
|                       | 43  | 28  |     |
| 練習や試合のため遊ぶ時間がない       | 49  |     | 20  |
|                       | 54  | 38  |     |
| 先輩がいばりすぎる             | 17  |     | 7   |
|                       | 20  | 10  |     |
| 厳しい練習についていけない         | 7   |     | 3   |
|                       | 7   | 6   |     |
| 監督やコーチが自分を正しく評価してくれない | 13  |     | 6   |
|                       | 13  | 13  |     |
| 親が部活動について理解してくれない     | 8   |     | 13  |
|                       | 10  | 4   |     |
| 異性の友人とゆっくり交際ができない     | 24  |     | 11  |
|                       | 26  | 18  |     |
| 日曜日や休日、ゆっくり休息できない     | 40  |     | 10  |
|                       | 47  | 24  |     |
| 技術がのびない               | 29  |     | 24  |
|                       | 25  | 37  |     |
| 家族との団らんの時間をもてない       | 8   |     | 5   |
|                       | 9   | 6   |     |

( ) = 最高値

とてもある } の合計  
かなりある }

ところで、「部活動にはいつている人がやめたら、その人の生活はどうなると思いますか」という質問をしてみた(表Ⅶ-2)。

これによると運動部員は、読書、交際、予復習からテレビにいたるまで、多くの項目で文化部や不参加の生徒に比べて、できるよう

になると考えている。ここにも、現在の運動部員、とりわけ熱心に活動している者の多忙感が表れているといえよう。

多忙とつらさ、そして、おそらくそれらに耐えることから沸き上がると考えてよい満足感、これが運動部員と部活動の関係のようである。

表Ⅶ-2 部活動の参加者が退部したあとの生活

(%)

| 項目                  | 属性  |     | 文化部 | 不参加 |
|---------------------|-----|-----|-----|-----|
|                     | 運動部 |     |     |     |
|                     | 熱心  | 不熱心 |     |     |
| 授業を熱心に聞くようになる       | 9   |     | 8   | 10  |
|                     | 8   | 10  |     |     |
| 就職の準備や受験の勉強に没頭できる   | 19  |     | 13  | 18  |
|                     | 19  | 21  |     |     |
| 小説など本を読むようになる       | 26  |     | 20  | 18  |
|                     | 25  | 26  |     |     |
| テレビやマンガを楽しむ時間が増える   | 74  |     | 48  | 66  |
|                     | 77  | 69  |     |     |
| 暇をもてあますようになる        | 75  |     | 71  | 65  |
|                     | 78  | 66  |     |     |
| 放課後、まちをブラブラする回数が増える | 72  |     | 64  | 62  |
|                     | 78  | 60  |     |     |
| 異性とゆっくり交際ができるようになる  | 45  |     | 30  | 36  |
|                     | 48  | 38  |     |     |
| 予習・復習をみっちりやるようになる   | 23  |     | 9   | 12  |
|                     | 28  | 13  |     |     |

とてもそうなる } の合計  
かなりそうなる }



## (2)運動部員と学校生活

それではここで、部活動それ自体ではなく、その他の学校生活の様子に目を向けることにしよう。

表Ⅶ-3は学校生活の充足感を、文化部、部活不参加者と比較したものである。これによると、「部活動などの面で」は、図Ⅶ-1から類推できるように文化部に比べてかなり高い。その他の項目では「友人とのつきあい」

(71%)が、他の生徒に比べて充足感が高く、「先生方との関係」(15%)も不参加者よりは少し高い。部活動を通じた友人や教師との関係が、実りあるものになっているためと思われる。

次に、学校生活への適応状況を、別の角度から、すなわち諸々の役割遂行という点において、文化部員と比較してみよう。

表Ⅶ-4は、学校やクラスでの役割を、部活動のためにさぼったことが、「1回もない」、

表Ⅶ-3 学校生活の充足感

| 項目                  | 属性  |    | 文化部 | 不参加 |
|---------------------|-----|----|-----|-----|
|                     | 運動部 | 熱心 |     |     |
| 授業を受けているとき          | 22  |    | 24  | 20  |
|                     | 24  | 17 |     |     |
| 部活動などの面で            | 61  |    | 41  | /   |
|                     | 78  | 24 |     |     |
| 生徒会・委員会・ホームルーム活動などで | 7   |    | 10  | 6   |
|                     | 7   | 8  |     |     |
| 先生方との関係で            | 15  |    | 14  | 9   |
|                     | 18  | 10 |     |     |
| 友人とのつきあい            | 71  |    | 56  | 60  |
|                     | 75  | 60 |     |     |
| 異性との交際              | 16  |    | 14  | 15  |
|                     | 17  | 14 |     |     |
| 塾・予備校などで            | 7   |    | 10  | 10  |
|                     | 7   | 8  |     |     |

とても充足している } の合計  
かなり充足している }

「1回はある」者、つまりあまりさぼらない者の割合を示したものである。これによると、掃除、クラスの係、クラスの委員などで、文化部の方があまりさぼらない者が多い。そして同じ傾向は、同じ運動部員の中でも不熱心な者にみられる。

この他、図表として掲載はしていないけれども、授業態度についても調べたところ、運動部員は他の生徒に比べて「よくいねむりする」者の割合がやや高かった（「とても」

あるいは「かなり」そうであるの割合：運動部熱心派35%、運動部不熱心派32%、文化部26%、不参加者28%）。

以上見てきたように、運動部員は学校生活の中で人間関係に充足感を見いだす一方で、校内の役割や授業態度にいく分問題と思われる態度——サボリ——が生じている。

表VII-4 学校内での役割遂行への影響

(%)

| 項目                        | 属 性          |                | 文 化 部 |
|---------------------------|--------------|----------------|-------|
|                           | 運 動 部<br>熱 心 | 運 動 部<br>不 熱 心 |       |
| 部活動のために掃除をさぼったこと          | 50           |                | 71    |
|                           | 46           | 58             |       |
| 部活動のために、ホームルームをさぼったこと     | 89           |                | 90    |
|                           | 88           | 92             |       |
| 部活動のために、クラスの係仕事をさぼったこと    | 68           |                | 81    |
|                           | 65           | 76             |       |
| 部活動のために、クラスの委員をひきうけなかったこと | 76           |                | 86    |
|                           | 70           | 87             |       |
| 部活動のために、学校の行事をさぼったこと      | 86           |                | 91    |
|                           | 84           | 91             |       |

1回もない } の合計  
1回はある }

### (3)運動部員の日常生活

表Ⅶ-1によれば、運動部員は文化部員に比べて多忙感が強く、勉強や遊びなどに充分時間がとれないと感じている者が多かった。実際の日常生活ははたしてどのようになっているのだろうか。

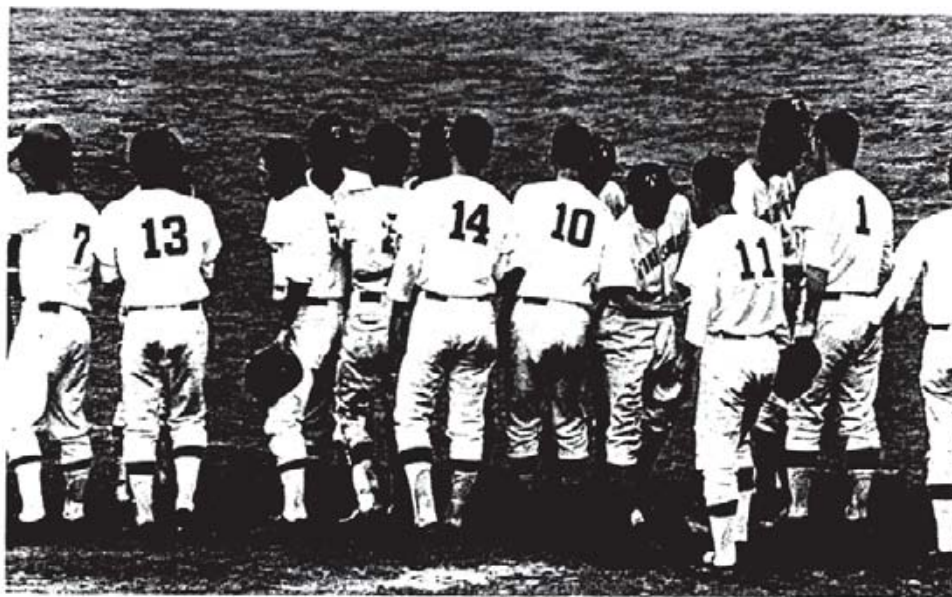
表Ⅶ-5によれば、文化部に比べて行動体験の低い項目は、「詩や小説」、「コンサートや演劇」ぐらいしかない。しかもこの2つは、忙しさによるというよりは、趣味や関心の分野が異なるために運動部員の体験が低くなっていると見られる。したがって意識の中で思っているほどには、文化部員に比べて日常生活が圧迫されてはいないようである。

ただし、不参加者と比較すると、さすがに

時間がたっぷりあるわけではない様子をうかがうことができる。アルバイト、映画、旅行といった項目では、不参加者の行動体験が高いからである。やはり、まったく部活動をしていない生徒と比べると、日常の生活での時間的ゆとりが少なくなるということは否定しがたい。

それでも「友人と喫茶店にはいる」（おそらく練習のあとで仲間といっしょにはいるのだろう）、「洗たくを自分でする」（おそらく汚れた練習着を洗うのだろう）といった、運動部ならではの体験も、日常生活の中にはある。

運動部員の日常生活は、このように余裕が少ない中でも固有の体験を含みつつ営まれている。



表Ⅶ-5 学校外での行動

(%)

| 項目               | 属性 |     | 運動部 |     | 文化部 | 不参加 |
|------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|
|                  | 熱心 | 不熱心 | 熱心  | 不熱心 |     |     |
| 友人と喫茶店に入る        | 67 |     | 58  | 62  |     |     |
|                  | 68 | 66  |     |     |     |     |
| ディスコに行く          | 6  |     | 4   | 9   |     |     |
|                  | 6  | 6   |     |     |     |     |
| 友人の家にとまる         | 23 |     | 11  | 27  |     |     |
|                  | 25 | 19  |     |     |     |     |
| アルバイトをする         | 10 |     | 9   | 17  |     |     |
|                  | 8  | 16  |     |     |     |     |
| ラジオやテレビにリクエストを出す | 7  |     | 7   | 8   |     |     |
|                  | 7  | 5   |     |     |     |     |
| 友人と酒をのむ          | 25 |     | 17  | 26  |     |     |
|                  | 26 | 23  |     |     |     |     |
| 電車やバスで席をゆずる      | 23 |     | 27  | 25  |     |     |
|                  | 26 | 16  |     |     |     |     |
| 映画をみにいく          | 43 |     | 40  | 52  |     |     |
|                  | 46 | 37  |     |     |     |     |
| 詩や小説を創作する        | 9  |     | 17  | 9   |     |     |
|                  | 8  | 11  |     |     |     |     |
| 友人と一緒に旅行する       | 7  |     | 5   | 13  |     |     |
|                  | 7  | 6   |     |     |     |     |
| テレビの公開放送をみにいく    | 2  |     | 2   | 4   |     |     |
|                  | 3  | 1   |     |     |     |     |
| 洗たくを自分でする        | 36 |     | 29  | 26  |     |     |
|                  | 37 | 36  |     |     |     |     |
| 家族の夕食をつくる        | 23 |     | 23  | 23  |     |     |
|                  | 22 | 26  |     |     |     |     |
| コンサートや演劇を鑑賞に行く   | 11 |     | 22  | 20  |     |     |
|                  | 11 | 11  |     |     |     |     |

この1年間に { 4、5回ある } の合計  
 { 何回もある }

#### (4)自己評価

以上、運動部員のプロフィールを、部活動への充足、日常生活など、いろいろな角度からみてきた。最後に、自分自身をどのような人間としてとらえているかを調べてみよう。

表Ⅶ-6によると、「体力なら」(56%)、「運動神経が発達」(53%)と、さすがに運動部員らしい側面で、他の生徒の自己評価を大きく上回っている。その他の項目では、「苦しいこともがまん」(59%)、「努力型」(36%)といった精神的な強さ、「リーダー的」(19%)、「友だちが多い」(71%)という人間関係についても、やや高い自己評価をしている。

「心がやさしい」、「ナウい」などの項目では、不参加者に比べていくぶん自己評価が下がるとはいえ、全体的に文化部員や部活動に属していない者に比べて自信のある傾向が表れている。

このことは運動部の中でも特に熱心派によく当てはまり、不熱心な者はむしろ運動部以外の者よりも数値の低い項目の方が多い。

日本の学校における部活動では、いったん所属した者が退部することを、批判的に見る傾向が強いように思う。「退部はだらしなこと、弱いこと」、そういう見方が強いように思う。だからやめたいと思っても、あまり気のはいらぬまま籍を置き、サボリの多い劣等部員と評価されながらズルズルと居続ける。図Ⅶ-1で「退部しよう」と思う生徒が運動部員(熱心・不熱心にかかわらず)の半数もいることから、この様子がうかがわれる。

こうした風潮があるからこそ、不熱心な部員が人間としてもあまり高く評価されず、自己評価も下がってしまうのではなかろうか。退部することはよくないとか根性がないとかいうのではなく、「好きでないからやめたのだ」というカラッとした目で見ることが大切であるように思う。

表Ⅶ-6 自己評価

(%)

| 項目                        | 属性 | 運動部 |     | 文化部 | 不参加 |
|---------------------------|----|-----|-----|-----|-----|
|                           |    | 熱心  | 不熱心 |     |     |
| 体力なら人に負けない                |    | 56  |     | 22  | 33  |
|                           |    | 65  | 37  |     |     |
| 心がやさしい                    |    | 55  |     | 55  | 60  |
|                           |    | 60  | 46  |     |     |
| 運動神経が発達している               |    | 53  |     | 25  | 41  |
|                           |    | 60  | 37  |     |     |
| ナウい(服装など)                 |    | 17  |     | 13  | 22  |
|                           |    | 19  | 14  |     |     |
| 勉強がよくできる                  |    | 15  |     | 15  | 16  |
|                           |    | 17  | 12  |     |     |
| 異性に人気がある                  |    | 13  |     | 10  | 15  |
|                           |    | 14  | 9   |     |     |
| リーダー的な存在                  |    | 19  |     | 14  | 15  |
|                           |    | 22  | 13  |     |     |
| 苦しいこともがまんできる              |    | 59  |     | 51  | 47  |
|                           |    | 64  | 47  |     |     |
| みんなから信頼されている              |    | 29  |     | 30  | 26  |
|                           |    | 33  | 21  |     |     |
| 顔がいい<br>(ハンサム、または美人、かわいい) |    | 15  |     | 14  | 16  |
|                           |    | 18  | 9   |     |     |
| 努力型                       |    | 36  |     | 30  | 30  |
|                           |    | 40  | 28  |     |     |
| 夜だちが多い                    |    | 71  |     | 61  | 66  |
|                           |    | 76  | 59  |     |     |
| 将来、大物(おおもの)になりそう          |    | 30  |     | 28  | 34  |
|                           |    | 35  | 19  |     |     |

とてもそう思う } の合計  
少しそう思う }

## 2. 高校生から見た運動部員

### (1)全体の傾向

それでは、以上のような特性をもつ運動部員を、高校生はどのようにみているのだろうか。調査対象となった高校生に、体力、性格、人間関係などさまざまな項目について、運動部員と運動部員以外の生徒を比較してもらった結果が、図Ⅶ-2である。

これによると、まず目につくのは、運動部員以外の生徒に比べて運動部員の方が高く評価される項目が多いことである。

とくに、「血の気が多い」(60%)、「こ一番での度胸がある」(57%)、「2日ぐらい徹夜してもへこたれない」(39%)などに示されるように、「たくましい」生徒としてみられている。スポーツを主な活動とする運動部、という点を顧れば、この結果は当然といえよう。

ただし、こうした「体力派」として以外にも、運動部員が評価される点が多い。たとえば、「根っから明るい」(46%)といった性格的側面でも好ましい生徒としてみられてい

る。その他、着実さ(「時間の使い方がうまい」(37%)、「人一倍の努力家」(32%))、人間関係(「友だちづき合いがよい」(35%)、「協調性のある」(31%)、さらには「ガール(ボーイ)フレンドがいる」(29%)、など、さまざまな特性が運動部員固有のものとして理解されている。

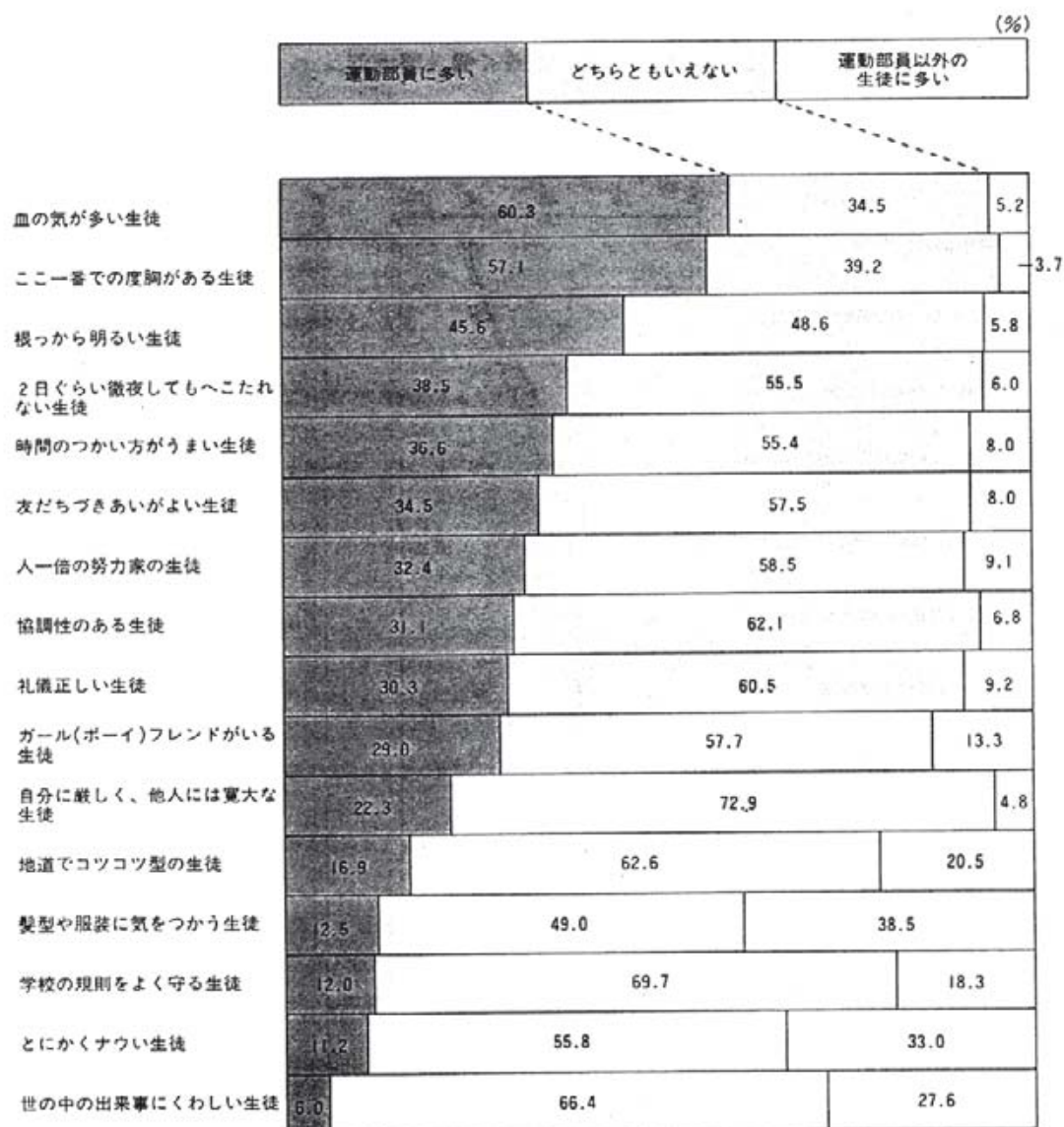
これらの項目をみると、表Ⅶ-6で運動部員自身の自己評価が高かった項目とほぼ同様であることがわかる。

次に、運動部員以外の生徒に多いと考えられている項目をみてみよう。

まず最上位に挙げられているものは、「髪型や服装に気をつかう」(39%)、ついで「とにかくナウイ」(33%)、「世の中の出来事にくわしい」(28%)である。良い悪いは別にして、これら3項目を共通項でくるとすれば、「時代即応性」ではなかろうか。

この他、「地道でコツコツ」、「学校の規則をよく守る」といった、いわゆる「まじめ型人間」も運動部員以外の特性とみる者が多い。

図Ⅶ－２ 運動部員とその他の生徒の比較



## (2)個人属性別

運動部員とその他の生徒への比較評価を、個人属性別にみたものが図Ⅶ－３である。グラフは「運動部員に多い」の回答率を表している。

性別ではあまり大きな差がないとはいえ、「まじめさ」を表す項目などを除けば、大半

は女子の評価の方が上回っている。これをスポーツマンにあこがれる女性心理の表れと決めつけるのは乱暴かもしれないが、女子の方が運動部員により好意的な態度を示している。

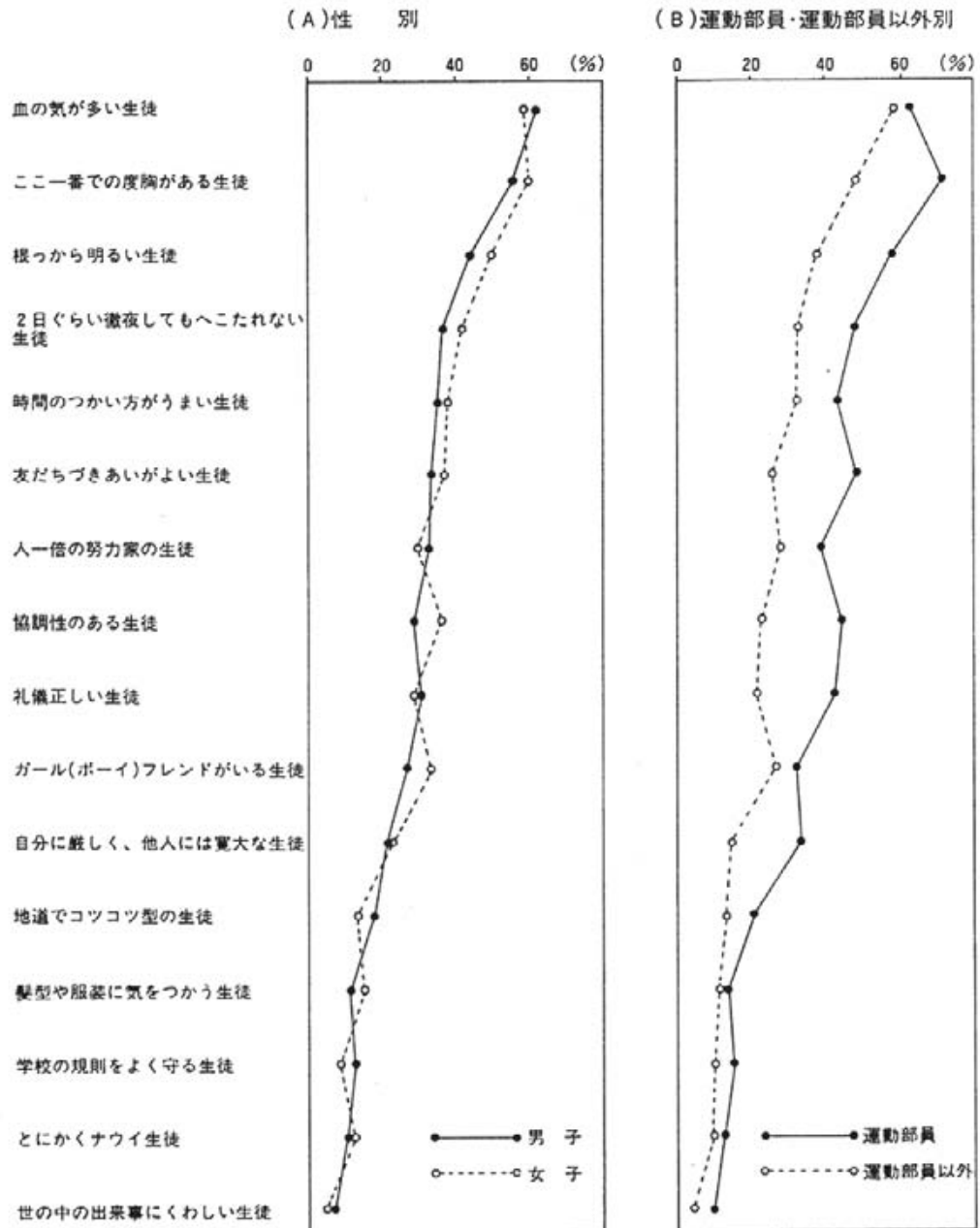
次に、運動部員か否かによる違い(図Ⅶ－３(B))に移ることにする。ここでは性別の場合よりも顕著に差が表れている。すべての項目について運動部員自身の方が「運動部員



の方が多い」の回答率が高い。しかも明らかによいイメージをもつ特性ではその差が大き

く、髪型やナウさなど時にはマイナスイメージにもなり得るものについてはあまり差がない。

図VII-3 運動部員とその他の生徒の比較<個人属性別>  
——「運動部員に多い」の回答率——



### (3)私立・公立別

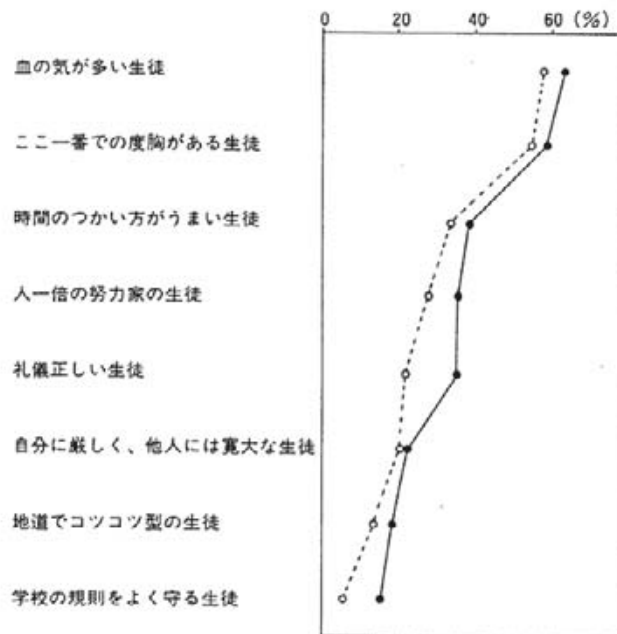
図Ⅶ-4は、「運動部員に多い」の回答率について、私立高校の方が高い項目を(A)、公

立高校の方が高い項目を(B)に集めたものである。

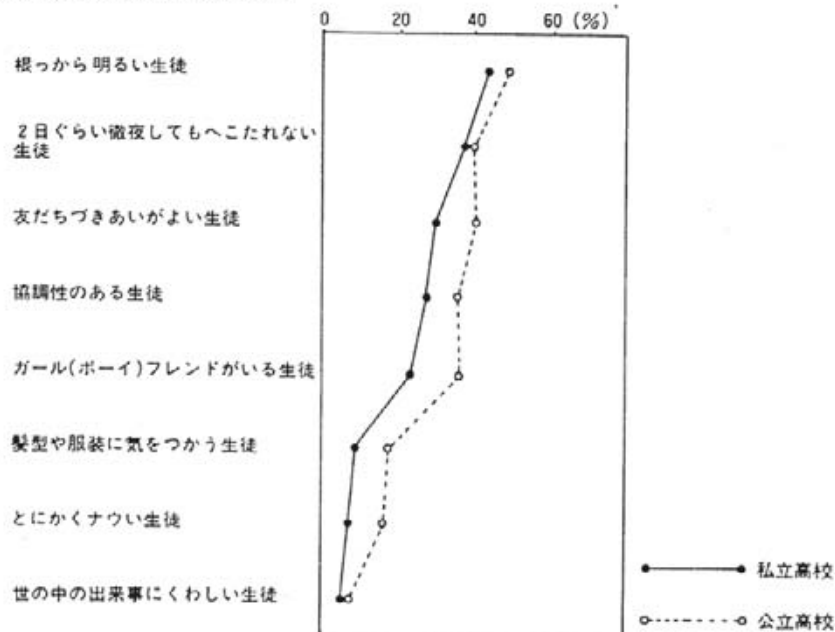
私立と公立の間で特に差が大きい項目は、(A)では「礼儀正しい」、「学校の規則」、「人

図Ⅶ-4 運動部員とその他の生徒の比較<私立・公立別>

(A) 私立高校の方が回答率の高い項目



(B) 公立高校の方が回答率の高い項目



一倍の努力家」など、(B)では「ガールフレンド」、「友だちづきあい」、「髪型や服装」、「とにかくナウイ」などである。このことより、私立高校の運動部員はまじめで精進型、公立高校の運動部員は現代的で交際好き、といった特徴を見いだすことができる。

これはそのまま、私立と公立における運動部の性格が異なることを意味していると思わ

れる。すなわち、少なくとも今回の調査対象に関する限り、私立ではしきたりや能力向上を重んじ、公立では部員の交流を楽しむことに重点が置かれている運動部が多いようである。前者は伝統的な運動のイメージに近く、後者は最近のレジャースポーツを象徴しているのではなかろうか。

### 3. 運動部活動がもたらすもの

運動部にはいつ活動することは、生徒に対して何をもたらすのか。これまで記述してきたことからまとめると、次のようになる。

- 多忙な生活……レジャーや交際にかかる時間がとれないなど、多忙感が高くなる。実際の生活でも、アルバイト、旅行、映画は部活動に参加していない者より行動体験が低い。
- 高い充実感……部活動への満足感が高い。おそらく厳しく苦しい練習に耐えることも、満足感を高める要因の1つと思われる。また、部活動に限らず、学校生活全体をみても、人間関係の側面で運動部員は充足感が高い。
- 人間形成への影響……運動部員は自己評価が高く、自分に自信を持っている。高校生全体からも、性格や人間関係について高く評価されている。ただし、時代即応的な点

ではやや評価が下がる。

そうした評価のポイントは、学校の特性(たとえば私立と公立)によって異なる。学校の違いは、運動部の位置づけやイメージを変えるのであろう。

- 不熱心な運動部員の問題……以上の3点は運動部員の中でも熱心に活動している者について、とくにあてはまることである。不熱心な者は、こうした傾向がいくぶん弱まる。とくに自己評価では、運動部員以外の生徒より低い項目が多い。もともと自分に自信がないから不熱心になってしまうのか、それとも熱のはいらぬまま居続けることが自己評価を下げってしまうのかは、今回の調査だけではわからない。しかし、いずれにしてもこのことは、運動部のあり方を考える上で、重要な論点となろう。

## 第VIII章 高校の部活動のあり方をめぐって



### 1. はじめに

高校生の部活動は多種多様である。運動部と文化部ではその活動時間や活動内容が大きく違っている。また同じ運動部でも甲子園、国体、インターハイをめざして毎日遅くまでまた休日や夏休みも返上して練習に打ち込む部活動が一方にあれば、一方にレクリエーションや楽しみ程度にスポーツを楽しむ同好会的な運動部もある。指導する教師の側でも意見の対立がある。部活をやる以上、全国大会というはっきりした目標を持ち、その目標に向け連日努力してこそ成果が上がる、そのためには指導の労を惜しまないという意見もあれば、一方で高校生の本分はやはり勉強であり、部活動はあくまで勉強との両立をはかり、し

やにむに全国大会をめざすより、高校生らしい活動の限界を引いて、レクリエーションや楽しみとしての部活動の限界を守るべきだという意見もある。前者を「全国大会派」、後者を「楽しみ派」と呼ぶことができる。

今回の我々の調査のねらいの1つは、以上のような「全国大会派」と「楽しみ派」の高校生が、どのような学校に存在し、それぞれがどのような生活や意識をもっているかを明らかにしたいということであった。それは高校における部活動のあり方を考える1つの材料になると考えたのである。

上記の分析のために、本章およびIII章とIX章では、次のような学校類型を採用した。

A 私立スポーツ校——全国大会レベルの出場実績が多数あり、出場選手も多く、大学進学は私立大中心の私立高校——A1校、A2校

B 私立進学校——全国大会レベルの出場実績や出場経験選手は少なく、大学進学は国公

立希望の多い私立進学校——B1校、B2校、B3校

C 公立進学校——Bと同じ傾向の公立進学校、部活動自体はきわめて盛ん——C1校、C2校、C3校、そして他の要因を排除するため、男子のみの集計（765名）を行った。

## 2. 運動部に熱心な生徒たち

高校の部活動の中心は、文化部より運動部にあるといってよい。今回調査対象になった生徒（高校2年、10～11月）の部活動への参加率には、運動部39%、文化部19%という2倍近くの差がある。さらに部活動時間や部活動が生徒の生活に占める比重は、運動部が文化部を大きく上回る。たとえば、週の活動日は、運動部（熱心な）生徒では6日～7日が71%に対し、文化部のその割合は27%となっている。夏休みもほぼ毎日活動は、運動部（熱心な）生徒は51%に対し、文化部18%と大きな差がある。部活動に毎回あるいはほとんど出席は、運動部（熱心な）生徒の60%、文化部の生徒の25%と部活への熱意に大差がある。部活動の面で「充足している」（とても+やや）と答えた生徒は、運動（熱心な）生徒の78%、文化部の生徒の41%と、満足度でも、運動部が文化部を上回っている。

しかし、同じ運動部でも熱心に参加している生徒と、あまり熱心でない生徒がいることを見落してはならない。その割合は熱心派が7割、不熱心派が3割と、熱心な生徒が2倍以上多くなっている。（文化部では熱心と不熱心がほぼ同数）。

同じ運動部に属していても熱心な生徒と熱心でない生徒では、部活動の内容や部活動に対する意見等に大きな差違のみられることは、これまでの各章で分析した通りである（データは巻末参照）。文化部においてはあまり差がみられない。

総じていえば、運動部に熱心に打ち込んでいる生徒の方が、中途半端に参加している生

徒より、部活動に充実感を感じており、また授業においても友人関係においても校外生活や自我像に関してもはつらつとして積極性のある好ましい結果が出ている。運動部熱心と不熱心の生徒の比較のデータが示す限り、単に楽しみやレクリエーションとして適当に部活動に参加する、あるいは気が向かない時は部活動に出ないという態度は好ましくないといえる。部活動に参加する以上、中途半端な参加よりそれに打ち込む態度が大切なことをこれらのデータは物語っている。

しかし、同じ運動部に熱心な生徒でも、国体、インターハイ、甲子園などの全国大会をめざして部活動一色の生活を送る「私立スポーツ校」の生徒と、そういった大会をめざすより勉強との両立を苦慮しながら運動部に打ち込む生徒（私立、公立の「進学校の生徒」に多い）では、部活動の形態や意味は違っている。その点を明らかにするために、男子で運動部熱心な生徒だけを取り出し、学校類型別にみたのが表Ⅷ-1である。文化部の数字も比較の意味で示した。この数字の意味することを考えてみよう。

まず部活動の実績であるが、所属している部の過去5年間の実績をみると、全国レベルの大会出場が「私立スポーツ校」63%、「私立進学校」18%、「公立進学校」10%と、「私立スポーツ校」の実績が他を圧倒的に引き離していることがわかる。

この全国大会出場を勝ち取る「私立スポーツ校」の練習量の多さや厳しさは、次のような数字でわかる。

表Ⅷ-1 部活動の実態（学校類型・部活動の種類別、男子のみ）

(%)

| 項目                  | 運動部熱心                 |       |       | 文化部     |       |       |
|---------------------|-----------------------|-------|-------|---------|-------|-------|
|                     | 私立スポーツ校               | 私立進学校 | 公立進学校 | 私立スポーツ校 | 私立進学校 | 公立進学校 |
| 人数                  | 208                   | 107   | 151   | 124     | 108   | 67    |
| 全体に占める割合            | 24.1%                 | 20.9% | 39.4% | 14.4%   | 21.1% | 17.4% |
| 週活動日(週に)            | 7日<br>52.8            | 21.6  | 11.4  | 2.8     | 4.5   | 3.7   |
|                     | 6日<br>42.2            | 34.3  | 44.3  | 24.5    | 17.0  | 22.2  |
| ほぼ毎休日活動             | 70.4                  | 32.1  | 14.8  | 1.7     | 1.0   | 0.0   |
| 夏休みほぼ毎日活動           | 66.3                  | 40.2  | 55.7  | 17.8    | 4.7   | 19.6  |
| 全国レベルの大会出場          | 63.4                  | 18.4  | 9.5   | /       | /     | /     |
| 学校は部活動に力を入れている      | 88.9                  | 43.0  | 49.7  | 80.5    | 24.3  | 42.9  |
| 大会に応援にいったことが3回以上ある  | 60.5                  | 41.1  | 32.9  | 29.0    | 9.3   | 9.1   |
| 体育教師が顧問             | 72.5                  | 43.3  | 46.3  | 0.9     | 6.3   | 3.3   |
| 芸術科教師が顧問            | 1.2                   | 4.8   | 0.7   | 19.4    | 11.6  | 18.3  |
| 顧問の先生(いつも+かなり)出席    | 74.9                  | 31.4  | 30.0  | 22.2    | 14.8  | 14.0  |
| 今の高校ははじめからぜひ入学したい学校 | 46.9                  | 24.8  | 42.3  | 19.4    | 9.3   | 50.0  |
| 部での位置               | いつもレギュラー(中心)<br>39.2  | 64.4  | 67.3  | 56.9    | 55.2  | 68.8  |
|                     | ときどきレギュラー(中心)<br>21.1 | 23.1  | 13.6  | 28.9    | 20.7  | 14.6  |
| 運動部                 | 81.7                  | 81.4  | 81.5  | 57.4    | 50.4  | 43.9  |
| 文化部                 | 2.0                   | 4.6   | 6.0   | 21.3    | 39.3  | 42.4  |
| 不参加                 | 6.4                   | 14.3  | 12.6  | 21.3    | 10.3  | 13.7  |
| 帰宅後の疲れかなりある         | 62.7                  | 61.9  | 68.4  | 17.3    | 21.0  | 16.0  |
| 部活は                 | (とても+かなり)楽しい<br>55.8  | 64.7  | 72.0  | 66.4    | 54.6  | 45.6  |
|                     | (とても+かなり)苦しい<br>71.1  | 50.5  | 54.7  | 10.8    | 9.3   | 16.4  |
|                     | (とても+かなり)厳しい<br>69.6  | 41.0  | 43.3  | 13.6    | 7.2   | 10.0  |
| 卒業後の進路希望            | 私立四年制大学<br>76.6       | 32.1  | 12.0  | 70.7    | 27.8  | 9.0   |
|                     | 国公立四年制大学<br>7.3       | 59.4  | 80.7  | 19.5    | 64.8  | 83.6  |
| 家での勉強時間2時間以上        | 9.7                   | 22.7  | 29.8  | 25.8    | 28.9  | 27.3  |
| 部活と勉強の両立は可能         | 48.8                  | 65.4  | 53.7  | 44.3    | 52.3  | 55.3  |
| (とても+かなり)の悩み        | 勉強する時間がない<br>40.7     | 47.7  | 45.3  | 17.6    | 19.4  | 22.0  |
|                     | 遊ぶ時間がない<br>62.3       | 56.2  | 45.6  | 22.2    | 19.4  | 15.0  |
|                     | 異性との交際の時間がない<br>47.2  | 37.1  | 17.6  | 19.8    | 11.3  | 8.5   |
|                     | ゆっくり休息の時間がない<br>43.1  | 31.1  | 18.0  | 11.2    | 8.2   | 13.3  |

(i) 週6日以上練習；「私立スポーツ校」95%、「私立進学校」56%、「公立進学校」56%

(ii) ほぼ毎日練習；「私立スポーツ校」70%、「私立進学校」32%、「公立進学校」15%。

(iii) 部活動はかなり厳しい；「私立スポーツ校」70%、「私立進学校」41%、「公立進学校」43%。

「私立スポーツ校」が学校を挙げて全国大会をめざした部活動にどれだけ力を入れているかは、次のような数字からわかる。

(i) 学校は部活動に力を入れていると思う「私立スポーツ校」89%、「私立進学校」43%、「公立進学校」50%。

(ii) 体育教師が部の顧問；「私立スポーツ校」73%、「私立進学校」43%、「公立進学校」46%。

(iii) 顧問教師の指導うまい；「私立スポーツ校」52%、「私立進学校」44%、「公立進学校」36%。

(iv) 部活動はかなり厳しい；「私立スポーツ校」70%、「私立進学校」41%、「公立進学校」43%。

「私立スポーツ校」にはその高校にはじめから入りたかった生徒が7割もいることから（一般的に、進学校にははじめから入りたかった生徒はかなりいるが、非進学校には少な

い）、これらの学校の運動部の強さに引かれ、入学した生徒が多数いることがわかる。ただ、いつもレギュラーになれるのは、「進学校」（公立・私立とも）では運動部に熱心な生徒の7割近くであるのに対し、「私立スポーツ校」では4割であり、「私立スポーツ校」の選手の層の厚さをうかがい知ることができる。

以上のように「私立スポーツ校」にとって、運動部の実績は、入学希望者の確保や生徒の就職・進学、学校の活気や名声の高揚にとって不可欠なものであり、自ずと力を入れ、練習も厳しいものになる。

一方、公私を問わず「進学校」にとっての部活動は、入学者の確保や進路や学校の名声にとっては何らメリットにはならず、生徒の受験への体力や気力の鍛錬の場あるいは生徒の余裕の証くらいの意味しか持たない。それにしては、「進学校」の運動部（熱心な）生徒たちはがんばっているという印象を受ける。

「進学校」の運動部員の学期中の練習量は少ないが、その分夏休みに「私立スポーツ校」に負けない練習を行っている（ほぼ毎日活動；6割弱）。「進学校」の生徒たちは、勉強との両立をめざし（両立可能；「私立進学校」65%、「公立進学校」54%、「私立スポーツ校」49%）高校生らしい部活動のあり方を探っているのである。

### 3. 部活動が生活時間に及ぼす影響

#### (1) 勉強時間

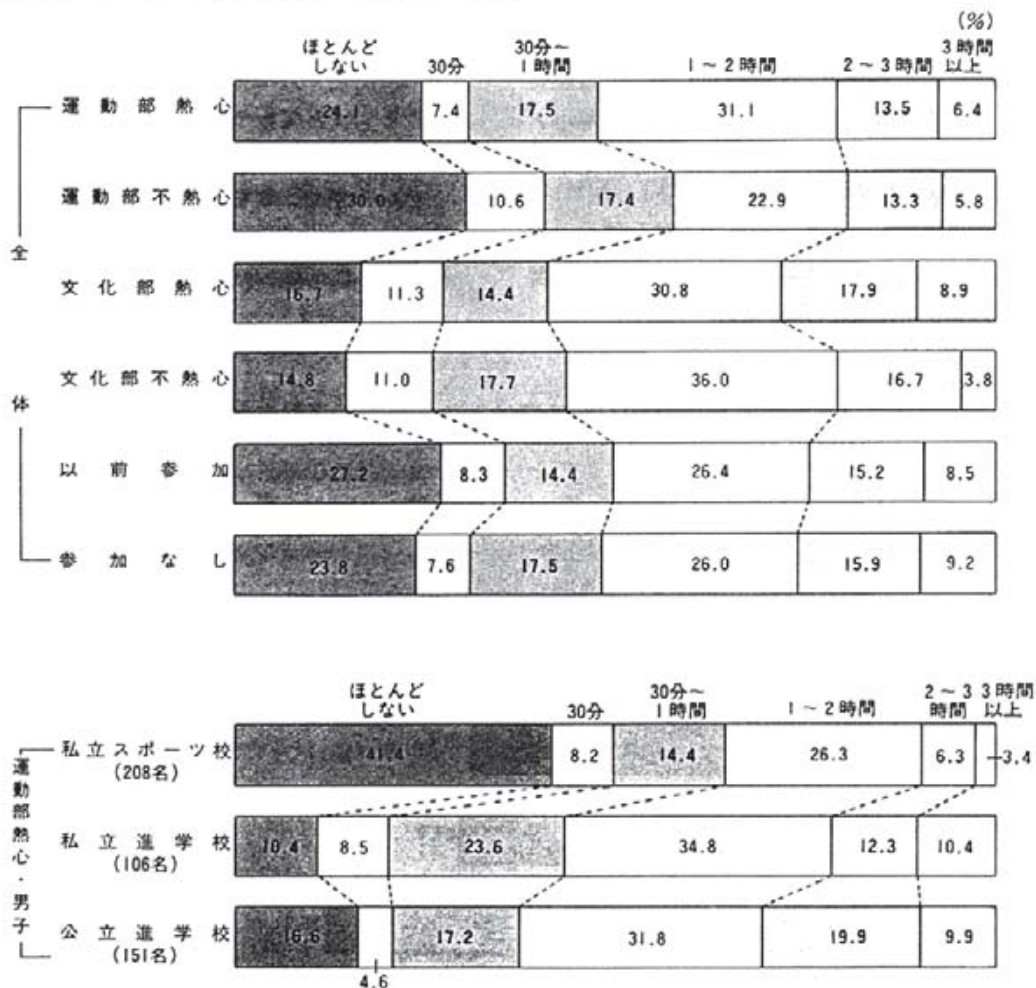
図Ⅷ-1は、部活動の参加形態と家での勉強時間との関係を見たものである。

運動部の生徒が、文化部や部活不参加の生徒に比べ、若干勉強時間が短くなっていることがわかる。しかし、勉強時間の不足は、運動部に熱心な生徒より、不熱心な生徒に目立つ。一番勉強時間が長く真面目なのは文化部の生徒たちである。部不参加の生徒は、時間

の余裕があるとはいえ、必ずしも勉強時間が長いわけではない。

さらに学校差がはっきりあることもわかる。運動部に熱心な男子だけ取り出してみると、学校から帰宅後の疲れの程度は学校差がないにもかかわらず（表Ⅷ-1参照）、公立私立を問わず、「進学校」の生徒はよく勉強している。2時間以上が「公立進学校」で3割、「私立進学校」で2割強に対し、「私立スポーツ校」では1割弱。30分以内と短いのは「私

図Ⅷ-1 家での勉強時間×部活動参加別



立スポーツ校」で半数と多く「進学校」では2割程度である。

「私立スポーツ校」では、運動部の選手は全国大会をめざし部活動に全精力を傾け、勉強は二の次にならざるを得ない。それを許容する雰囲気も学校にもある。先に指摘したように、「私立スポーツ校」にとって運動部の輝かしい実績は学校の名声を高め、入学希望者をふやし、学校のまとまりをよくし学校運営をやりやすくする。運動部の生徒たちも、「高校の部活動は就職や進学する時有利になる」と考え（「私立スポーツ校」78%、「私立進学校」52%、「公立進学校」20%）、多少勉強はおろそかにしても、部活動に打ち込

むことになる。

「私立スポーツ校」の生徒がめざす進路先は、私立四年制大学が圧倒的に多い(77%)のに対し、「進学校」では公立私立とも国公立四年制大学（それぞれ81%、59%）をめざし、部活動の実績ではなく勉強の実力で大学受験を乗り越えようとしている。「進学校」には、運動部のレギュラーだから宿題や予習・復習をしなくても大目にみられるという雰囲気はなく、とにかく皆が受験のために勉強をしなくてはならないという暗黙の規範があり、部活動での疲れもものとせず、家で勉強に打ち込む生徒が多くいるのであろう。



## (2) テレビ視聴時間

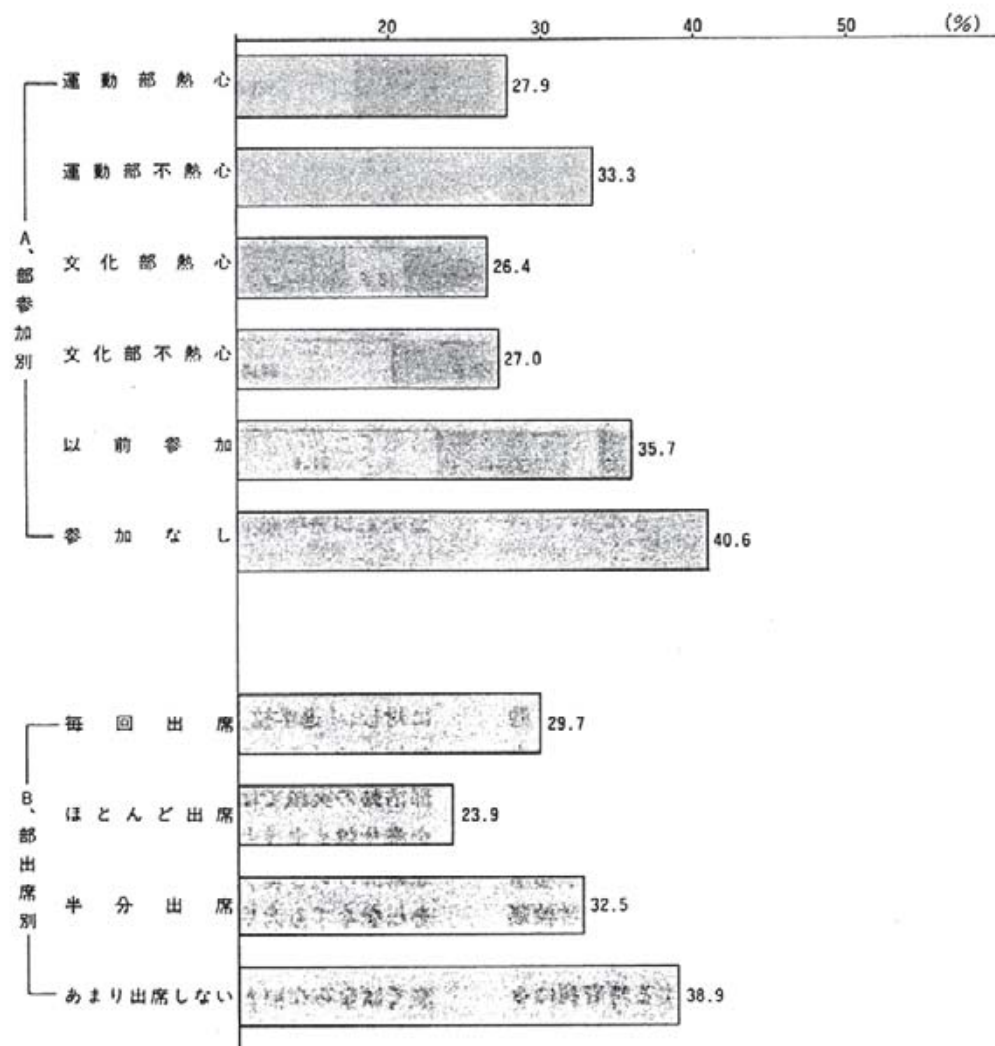
家でのテレビ視聴時間を、部参加及び出席別にみたのが図Ⅷ-2である。テレビ視聴時間が2時間以上と長いのは、運動部不熱心と部不参加の生徒であり、逆に短いのは運動部熱心と文化部の生徒である。

学校差も多少あり、たとえば運動部熱心な男子についてみると、2時間以上と長時間視

聴群は、「私立スポーツ校」34%、「私立進学校」25%、「公立進学校」23%と、「私立スポーツ校」に多くなっている。

部活動をやめたら、「予習・復習をみっちりやる」（とても+かなり；13%）というより「暇をもてあますようになる」（同70%）、「テレビやマンガを楽しむ時間がふえる」（同69%）という生徒の回答が示すように、テレビ視聴は、部活動への消極性と結びついている。

図Ⅷ-2 テレビの視聴時間・2時間以上の割合×部活動参加別



## 4. 部活動が行動経験や自我像に及ぼす影響

### (1) 行動経験

II章でみたように、高校での部活動に打ち込むあまり、「勉強する時間がない」（運動部熱心43%、文化部19%）「練習や試合のため遊ぶ時間がない」（運動部熱心43%、文化部19%）「休日ゆっくり休息できない」（運動部熱心25%、文化部24%）、「異性とゆっくり交際できない」（運動部熱心26%、文化部11%）という悩みを高校生たち、とりわけ運動部に熱心な生徒は深刻にかかえている。

運動部に熱心な生徒の中でも「私立スポーツ校」の生徒が、遊び、異性との交際、休息の時間の不足を強く訴え、「進学校」の生徒は勉強時間の不足を嘆いている(表Ⅷ-1参照)。

では実際の生徒たちの校外の行動経験は、

部参加の生徒と不参加の生徒でかなり差があるのだろうか。それを見たのが表Ⅷ-2である。

運動部に熱心な生徒は、友人とのつきあいを頻繁に行っている。スポーツを通して結ばれた友情は、学校外における結びつきをも強いものになっている。高校時代の部活で辛苦を共にした仲間との友情は一生継続する素地のあることを示している。公立校では、喫茶店やアルコールを通してのつきあいが多く、「私立スポーツ校」では映画をいっしょに観にいたり、友人の家に泊ったりすることが多い。

一方、文化部の生徒は、一番真面目で、コンサートにはよくいく他は、ここにあげられたような高校生としては多少逸脱的な行動はあまりとらないようである。それだけ行動範囲が狭いともいえる。

表Ⅷ-2 この1年間の行動経験(4、5回以上ある割合)

(%)

| 項目        | 全 体    |        |        |        | 運動部熱心(男子) |       |        |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-----------|-------|--------|
|           | 運動部熱心  | 運動部不熱心 | 文化部    | 不参加    | 私立スポーツ校   | 私立進学校 | 公立進学校  |
| 友人と喫茶店に入る | (68.0) | 66.1   | ▲57.6  | 62.4   | 62.6      | 49.5  | (71.8) |
| 映画をみにいく   | 46.0   | ▲37.2  | 39.6   | (51.6) | (51.7)    | 47.7  | ▲39.7  |
| 友人と酒をのむ   | (26.4) | 22.9   | ▲17.3  | (26.4) | 25.4      | 24.5  | (37.1) |
| 友人の家にとまる  | 24.9   | 18.7   | ▲11.2  | (26.6) | (38.4)    | ▲13.1 | 27.8   |
| コンサートに行く  | 10.9   | 10.5   | (21.8) | 19.6   | 10.6      | 12.1  | 11.2   |
| アルバイトをする  | ▲8.1   | 15.7   | 9.4    | (16.8) | 9.1       | 7.5   | 7.3    |
| 友人と旅行する   | 7.0    | 5.7    | ▲5.3   | (12.5) | 9.1       | 8.4   | 9.3    |
| ディスコへいく   | 5.5    | 6.1    | ▲4.1   | (9.2)  | (9.7)     | 3.8   | 4.0    |

(○)印 最大値  
▲印 最小値

部不参加の生徒は、その余ったエネルギーを、校外生活で発散していることがわかる。映画、友人宅泊、友人と酒、アルバイト、友人と旅行、ディスコと、最も校外の行動経験が豊富である。

以上のように、部活動は学校の勉強とは違うとはいえ、学校の期待する枠内に、生徒の行動をとどめる力を持っている。部活動に生徒を熱中させることは、多少勉強の妨げになる場合があるにしろ、高校生の不満やエネルギーを「健全な方法」で発散させ、学校の統一をつくり、生徒の非行や逸脱行動を阻止する「有効な」機能をはたしているといえよう。

## (2) 自我像

部に熱心に参加している生徒とそうでない生徒で自我像(自己概念(Self-concept))はどのように違っているのでしょうか。13項目について尋ねた。

表Ⅷ-3に示されているように、運動部熱心の生徒の自我像が一番良好であることがわかる。同じ運動部に所属していても不熱心な生徒の自我像は決して自信に満ちたものではない。

運動部熱心な生徒がとりわけぬきんでているのは、「体力なら人に負けない」(2位との差28%)「運動神経が発達している」(同

表Ⅷ-3 高校生の自我像 (とても+やや+と思う割合)

(%)

| 項目           | 全 体    |        |        |        | 運動部熱心(男子) |        |        |
|--------------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|
|              | 運動部熱心  | 運動部不熱心 | 文化部    | 不参加    | 私立スポーツ校   | 私立進学校  | 公立進学校  |
| 友だちが多い       | (76.2) | 59.4   | 61.0   | 65.9   | 84.2      | > 77.3 | > 61.6 |
| 体力なら人に負けない   | (64.8) | 36.8   | 22.0   | 33.4   | 81.2      | > 63.2 | > 53.0 |
| 運動神経が発達している  | (60.4) | 36.8   | 24.5   | 40.6   | 80.8      | > 60.3 | > 49.0 |
| 苦しいこともがまんできる | 44.0   | 46.7   | (51.4) | 47.3   | 76.4      | > 67.0 | > 49.0 |
| 男一カ型         | (39.8) | 28.2   | 30.1   | 30.0   | 43.0      | 43.4   | 34.4   |
| みんなから信頼されている | (32.8) | 20.6   | 30.0   | 25.9   | 34.3      | 37.7   | 21.2   |
| リーダー的な存在     | (22.1) | 13.0   | 14.1   | 14.9   | 23.1      | 34.0   | 15.9   |
| 心がやさしい       | 59.8   | 45.6   | 55.2   | (60.3) | 77.4      | > 59.4 | > 48.4 |
| ナウい(服装など)    | 18.6   | 13.6   | 12.6   | (22.1) | 25.0      | > 18.9 | > 11.3 |
| 異性に人気がある     | 14.4   | 8.6    | 9.8    | (15.0) | 24.6      | > 19.8 | > 8.6  |
| 顔がいい         | (18.1) | 9.3    | 14.4   | 15.7   | 25.2      | > 20.7 | > 15.2 |
| 勉強がよくできる     | (17.1) | 11.6   | 14.8   | 16.2   | 18.3      | 21.7   | 18.6   |
| 将来大物になりそう    | (35.1) | 19.2   | 27.9   | 34.1   | 48.3      | > 40.6 | > 31.8 |

(( )) 最大値)

20%)という体力、運動能力に関することであり、次いで「友だちが多い」(同10%)「リーダー的な存在」(同7%)、「みんなから信頼されている」(同3%)という人間関係面でも自信を強めている。また「努力型」「勉強がよくできる」「将来大物になりそう」という自信もあり、運動部で鍛えられた体力とバイタリティーは他の面での自信にもつながっている。

一方、運動部に入っても熱心に活動していない生徒は、運動のみならずすべての面で自信を持っていない。

文化部に熱心な生徒は、「苦しいことががまんできる」という自己評価が多少他と比

べて高い(2位との差4%)他は、部活動が自信を高めることにはつなげていない。文化部の生徒は運動能力や体力にあまり自信のない生徒の集まりという傾向も読みとれる。

現在部活動に参加していない生徒の自我像がとりわけ落ち込んでいるわけではない。それぞれの分野で平均的な値を示している。学校の部活動以外での活躍があれば、それが自我像にプラスに作用しているものと思われる。

これまでの高校生調査で、自我像に関しては次のようなことが明らかになっている。つまり、現在の学歴社会状況を反映して、勉強に対する自信のあるものは、その他の分野の自我像もきわめて明るく「誇り高い高校生」に

表Ⅷ-4 自我像(とても+少し思う割合)×部活動参加別×成績自己評価別(男子のみ)

(%)

| 項目            | 部活動参加           |                         |                          | 部活動不参加          |                         |                          |
|---------------|-----------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|-------------------------|--------------------------|
|               | 勉強できる<br>(174名) | 勉強あまり<br>できない<br>(478名) | 勉強ぜんぜん<br>できない<br>(326名) | 勉強できる<br>(147名) | 勉強あまり<br>できない<br>(419名) | 勉強ぜんぜん<br>できない<br>(256名) |
| 友だちが多い        | 81.7            | > 67.8                  | > 58.6                   | 81.0            | > 64.7                  | > 59.5                   |
| 体力なら人に負けない    | 66.3            | > 48.5                  | > 42.9                   | 53.8            | > 33.5                  | > 27.6                   |
| 運動神経が発達している   | 70.9            | > 47.1                  | > 43.3                   | 66.0            | > 41.9                  | > 37.7                   |
| 苦しいことでもがまんできる | 77.2            | > 59.0                  | > 46.3                   | 74.9            | > 48.0                  | > 32.7                   |
| 努力型           | 65.5            | > 32.9                  | > 19.8                   | 61.7            | > 32.3                  | > 11.7                   |
| みんなから信頼されている  | 61.1            | > 26.6                  | > 15.1                   | 57.9            | > 22.4                  | > 12.1                   |
| リーダー的な存在      | 44.6            | > 15.5                  | > 11.1                   | 45.6            | > 9.8                   | > 9.0                    |
| 心がやさしい        | 82.8            | > 61.0                  | > 49.1                   | 87.7            | > 67.9                  | > 50.4                   |
| ナツい(服装など)     | 43.7            | > 11.1                  | > 8.9                    | 47.6            | > 17.7                  | > 13.7                   |
| 異性に人気がある      | 45.9            | > 10.1                  | > 5.9                    | 57.2            | > 10.0                  | > 7.0                    |
| 顔がいい          | 48.9            | > 13.4                  | > 9.5                    | 51.4            | > 11.7                  | > 9.3                    |
| 将来大物になりそう     | 64.6            | > 29.6                  | > 29.9                   | 69.4            | > 36.1                  | > 28.8                   |

なり逆に、勉強に対する自信のないものは、すべての分野で自信をなくして「いじけた高校生」になる。（『モノグラフ・高校生vol.2、高校生の生徒文化』福武書店；1980年参照）

ここでも表Ⅷ-4に示されているように、勉強に対する自信のあるものは、他の分野での自信も高いことが示されている。しかし、この表で勉強の自己評価が同じレベルのもの同士で、部参加者と不参加者で比較してみると、次の5項目に関し、どの成績段階でも、部参加者の自信が不参加者の自信を上回っている。

「体力なら人に負けない」「運動神経が発



達している」「苦しいこともがまんできる」

「努力型」「みんなから信頼されている」

逆に部不参加者に高いのは、「ナウい」と「異性に人気がある」という異性関係にかかわる項目だけである。

さらに、表Ⅷ-3で、運動部に熱心な男子を学校類型別にみると、>印のついた9項目に関し差がある。つまり一番熱心にスポーツに打ち込んでいる「私立スポーツ校」の生徒の自信がきわだって高いことがわかる。

このように、受験風潮の支配的な日本の高校の中でも、勉強=受験の価値を乗り越える部活動での活躍が確かに存在することが、これらのデータは物語っている。

本章の考察で明らかになったのは、次のようなことである。

(1) 同じ部活動でも文化部と運動部では、その活動時間や活動内容が大きく違う。また部活動に熱心な生徒と熱心でない生徒の分化は、運動部において顕著である。

(2) 部活動への中途半端な参加は、好ましい結果を生んでいない。部活動に参加する以上、それに打ち込む態度が大切なことをデータは物語っている。

(3) 同じ運動部でも、「私立スポーツ校」と「進学校」ではその活動内容が大きく違う。前者の生徒は全国大会をめざし部活動優先の生活を送っており、後者の生徒は勉強との両立をめざし奮闘している。

(4) 部活動で得た自信は、他の分野での自信も高めている。